

都市再生整備計画 フォローアップ報告書
福山駅南地区

平成29年11月

広島県福山市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	流動客数	人	124,731	124,731	109,838	確定 見込み ●	△	あり なし ●	123,131	H29年6月	△	全事業が完了し、中心市街地の魅力が向上していると考えられる。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	福山駅周辺の大型集客施設の閉店をはじめ、中心市街地の商業機能が低下している影響が大きく、目標の達成には至らなかったものの、近年の減少傾向から持ち直してきている。都市再生整備計画に位置付けた各種事業の実施により、賑わいが再生し、流動客数が増加している地点も見受けられる。
指標2	中心市街地内の人口	人	5,632	5,913	5,667	確定 見込み ●	△	あり なし ●	5,645	H29年4月	△	評価値の計測時期(3月)は、例年、減少傾向にあり、今回も減少している。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	計画区域内における人口は、ほぼ横ばい状態にある。ただ、地価の下落による建替えの促進や都市再生整備計画に位置付けた各種事業の実施により、中心市街地の魅力がより高まりつつあることなどから、マンション建設が進み人口が増加した地区も見受けられる。
指標3						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標4						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし		H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標2					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		
その他の数値指標3					確定 見込み				H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる		

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)	実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> ・成果を持続させるために 行う方策 	<p>中心市街地における居住人口や、流動客数の改善への事業効果の持続</p> <p>・地域の事業者等によるイベント(「とおり町ガーデンマルシェ」、「宮通り秋まつり」、「久松通り本気祭り」)や、「福山うずみフェスタ2017」、「えーほんでまち歩き」、「子どもフェスティバル」など、まちなかでのイベントを時期を合わせて開催した。 また、PR効果を高めるため共同でPRちらしを作成し、回遊性を高める取り組みを実施した。 ・商店街の活力向上のため、組合等が実施する活性化事業や、商店街への新規出店を支援した。</p>	<p>・まちなかでの各種イベント等の開催等により、多くの人が中心市街地を訪れ、にぎわいの創出につながった。 ・活性化事業への補助 8件、新規出店事業への支援 4件を行い、商店街等の魅力増進につながっている。</p>	<p>今後も、継続的にイベントの開催などを連携・支援しながらソフト事業の充実を図る。また、活用されていない公共空間等の利活用を促進させ、中心市街地のさらなるにぎわい創出につなげる。</p>
	<p>大型商業施設のさらなる利用促進</p> <p>商業施設全体の周知・利用促進のため、テレビCMを導入し、抽選会や市主催のイベントなど各種行事を実施した。 子育て支援センターにおいては、従来のイベントに加えSNSによるPRを行った。 地域交流センター・まちおこしセンターにおいては、2016年度に約250講座を実施した。</p>	<p>大型商業施設内の公共施設利用者については、2016年度272,371人であった。 (参考:2015年度には256,001人)</p>	<p>今年度においても、公共施設との連携やテナント誘致に工夫をこらすことにより、大型商業施設のさらなる利用促進を図っていく。</p>
<p>改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策 	<p>流動客数の改善</p> <p>福山駅前再生に向けて、行政や市民、関係地権者や事業者等が目指すべきまちの姿を共有し、その実現に向けて取り組んでいくため、(仮称)福山駅前再生ビジョンの策定を進めている。本ビジョンの策定にあたって、産学官民で構成する福山駅前再生協議会を立ち上げ、2017年7月までに協議会を3回開催した。 また、福山駅前再生について、まずはリノベーションによるまちづくりによって、スピーディーにエントランスゾーンのエリア価値を高め、再開発事業等につなげていくため、地権者や事業者を対象とした福山駅前再生手法説明会を2017年7月に開催した。 同年9月には福山駅前再生に向けた具体的なアイデアを提案してもらうことで、リノベーションによるまちづくりを動かし始めるきっかけとするためリノベーションまちづくりアクションミーティングを開催した。</p>	<p>福山駅前再生協議会での意見などを踏まえて、2017年3月に(仮称)福山駅前再生ビジョン(たたき台)を作成した。 福山駅前再生手法説明会では、参加者の81%がリノベーションによるまちづくりに関心を示した。(アンケートで「関心があり、すぐにでも取り組みたい」、「関心はあるが、もう少し詳しく知りたい」と回答した人の割合。参加者187人、アンケート回収134。) アクションミーティングには131人が参加し、アンケートに回答した参加者のうち、約96%が何らかの形でリノベーションによるまちづくりに自分も参加したいと回答した。</p>	<p>ビジョンのたたき台をもとに協議会での議論や市民、関係地権者等の意見を伺いながら、福山駅前を再生していく方向性や取組むべき課題等を整理し、2017年度に(仮称)福山駅前再生ビジョンを策定する。 また、ビジョンの策定と並行して、リノベーションによるまちづくりによって、スピーディーにエントランスゾーンのエリア価値を高め、再開発事業等につなげていくため、まずはリノベーションスクールの開催などを通じて実践的な取組につなげていく。</p>

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
人口減少時代においても、中心市街地の魅力を向上させるため、都市機能が集積し、だれもが安心して歩いて暮らせるまちづくりを進める。	立地適正化計画を策定し、活用可能となる制度等を有効に組み合わせることで中心市街地への高次都市機能の集積と居住を促し、拠点性と求心力を備えた活力ある中心市街地の形成を目指す。	H31	魅力ある中心市街地を形成していくためには、まちづくりの主役である企業や住民・行政が、それぞれの役割に応じて主体的に行動することが必要である。そのため、ビッグデータやGISデータを用いて、分かりやすくまちの将来像を示し、地元説明会や広報等を通して、周知・啓発を図る。
福山駅前再生について、スピード感を持って早期に実現するため、リノベーションによるまちづくりによって、エントランスゾーンのエリア価値を高め、再開発事業等につなげていく。	エントランスゾーンのエリア価値を高めるため、リノベーションスクールの開催などを通じて、実践的な取組につなげていく。	H29	既存の遊休不動産を活用し、新たな事業や雇用の創出に至るまでに必要な知識や技術をまちづくりの志のある者に身に付けさせる必要がある。